

教育研究業績書

所属	職名	氏名			
現代文化学部	教授	竹下 裕俊			

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2)作成した教科書・教材・参考書		
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(4)その他教育活動上特記すべき事項		
尚綱公開講座 「やさしく英語のセンスアップ ～歴史と表現に目を向けて～」	平成25年9月4日	英語力を磨くうえで、聞いたり話したりの実用的な英語運用能力の向上には時間がかかりハードルも高い。しかし、英語の歴史と表現に目を向ければ、そこには初級者でもやさしく英語の語学センスアップを図ることができるヒントがあることを述べた内容。
教員免許更新講習 「―英語の歴史とスタイルを意識した英語教育―」	平成26年8月20日	学習指導要領に記述はないものの、そもそも外国語を学ぶにあたり、その言葉の歴史を知ることが必須ではないかと問題提起。正課で扱うことは困難だとしても、折に触れ生徒たちに英語の歴史とスタイルを説明し意識させることが生徒たちの英語力向上に有効な手段になりうると主張。
文化言語学部公開講座 「英語の歴史を学んで気づくこと」	平成26年11月1日	英語の歴史を学ぶと、英語には多くの外来語が取り入れられていることが分かる。これは日本語も同様で、実は英語と日本語の語彙構成はよく似ており、この事実を知ることが、日本人が英語を学ぶ上での数少ない利点の一つになることを一般向けに平易に解説。
尚綱公開講座 「英語を ^{そもそも} 「原点」から考える」	平成30年9月3日	そもそも私たちの身の回りにあふれる英語とはどのような言葉なのか、そもそも英語のニュアンスを損なうことなく日本語に直すことは可能なのか、など英語の興味深い問題を日本語との比較も交えて ^{そもそも} 「原点」から分かり易く解説。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					

『ロデリック・ランダムの冒険』	共訳	平成11年12月	荒竹出版	伊藤弘之、竹下裕俊、 他5名	全505頁
<i>Stylistic Studies of Literature: In Honour of Professor Hiroyuki Ito, 'Some Syntactic and Stylistic Observations on Absolutes in Adventures of Huckleberry Finn'</i> (査読付)	単著	平成21年6月	Peter Lang		p. 53-69.
『コーパスと英語文体』 「電子コーパスを利用したMark Twainのコロケーション研究— <i>The Prince and the Pauper</i> の表情描写に見られる身体語彙について—」(査読付)	単著	平成28年10月	ひつじ書房		第5章 p. 103-131.
『英語のスタイル:教えるための文体論入門』『アカデミック・ライティングとは』 (査読付)	共著	平成29年3月	研究社	分担執筆 竹下裕俊、堀正広	第19章 p. 235-251.
<i>A Chronological and Comparative Study of Body Language in English and American Literature, 'Facial Expressions and Eye Behavior in American Literature: A Case Study of Ernest Hemingway's The Sun Also Rises'</i> (査読付)	単著	平成30年10月	開拓社		p. 133-163.
(論文)					
'The Language of Mark Twain's <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i> : With Special Reference to the Historical Present'	単著	平成元年10月	<i>Kurokami Review</i> No. 12		p. 17-30.
'The Language of Mark Twain's <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i> : With Special Reference to the Mind-Style'	単著	平成2年10月	<i>Kurokami Review</i> No. 13		p. 1-13.
'Some Observations on the Verb-Adverb Combination in <i>The Adventures of Tom Sawyer</i> ' (査読付)	単著	平成5年3月	『熊本大学英語英文学』 第36号		p. 135-150.

‘Some Observations on the Intensifiers in <i>Tom Sawyer Abroad</i> ’	単著	平成6年2月	『尚綱大学研究紀要』第17号		p. 33-45.
‘Some Aspects of Huckleberry Finn’s Idiolect’ (査読付)	単著	平成7年3月	『熊本大学英語英文学』第38号		p. 81-92.
‘Some Lexical and Stylistic Observations on the Language of <i>The Prince and the Pauper</i> ’	単著	平成9年2月	『尚綱大学研究紀要』第20号		p. 85-97.
「アメリカ散文の文体的特徴と <i>Huck Finn</i> 」(査読付)	単著	平成14年3月	『熊本大学英語英文学』第45号		p. 171-182.
「 <i>Huckleberry Finn</i> の現在分詞研究」	単著	平成17年2月	『尚綱大学研究紀要』第28号		p. 33-45.
「Hemingwayの表現の諸相—“The Undeclared”について—」(査読付)	単著	平成23年3月	日本英語表現学会『英語表現研究』第28号		p. 13-24.
「“The Undeclared”管見—表現に見る視覚動詞の役割—」	単著	平成24年3月	『尚綱学園研究紀要』A. 人文・社会科学編 第6号		p. 19-32.
「電子コーパスとしてのヘミングウェイ作品—“Big Two-Hearted River”について—」	単著	平成26年3月	『尚綱大学研究紀要』A. 人文・社会科学編 第46号		p. 119-131.
「AntConcを利用したヘミングウェイ短編作品の特徴語に関する一考察」	単著	平成27年3月	『尚綱大学研究紀要』A. 人文・社会科学編 第47号		p. 63-72.
「“The Short Happy Life of Francis Macomber”における登場人物の指示表現について」(査読付研究ノート)	単著	令和2年6月	日本ヘミングウェイ協会『ヘミングウェイ研究』第21号		p.105-114.
「登場人物の指示表現に見るヘミングウェイ作品—「医者」と「医者の妻」を中心に—」	単著	令和3年3月	『尚綱大学研究紀要』A. 人文・社会科学編 第53号		p. 29-38.
「ヘミングウェイの表現の諸相—「白い象のような山なみ」について—」	単著	令和4年3月	『尚綱大学研究紀要』A. 人文・社会科学編 第54号		p. 65-76.
「ヘミングウェイ作品における登場人物の指示表現の役割—「季節はずれ」を中心に—」	単著	令和5年3月	『尚綱大学研究紀要』A. 人文・社会科学編 第55号		p. 49-57.

「ヘミングウェイの「簡単な質問」における身体表現について」(研究ノート)	単著	令和6年3月	『尚綱大学研究紀要』 A. 人文・社会科学編 第56号		p. 107-112.
Ⅲ 学会等及び社会における主な活動					
1 身体表現における英語表現史: 英米文学作品をコーパスとして 2 英米文学作品における歴史的文体研究としての英語表現史研究: 身体表現の機能の解明 3 英米文学作品と歴史文体論: 顔身体表現へのデジタルヒューマニティーズ的アプローチ	1 基盤研究(C) / 平成28年度から平成30年度まで / 分担 2 基盤研究(C) / 令和元年度から令和3年度まで / 分担 3 基盤研究(C) / 令和5年度から令和7年度まで / 分担				
広島大学大学院文学研究科	博士学位論文審査委員 (平成30年2月6日)				